

紺野大介著「あるコスモポリタンの憂国 - 名門コーネルの景観 - 」

選択、選択出版刊 2010年6月号を読む

名門コーネルの景観

1. 医学部はNYのマンハッタンにあるが、コーネル大学のメイン・キャンパスはニューヨーク州の片田舎イサカ。ここはフィンガー・レイクス地方と呼ばれ、もともと自然が極めて美しい地形的景観を有するエリアである。何処までがキャンパスか分からないほど広大な敷地。MAPによれば500万坪以上あるのだろうか。中央付近のビーブ湖 (Beebe Lake)。ここから下流側へ向かいトリップハンマー (Triphammer Fall) という名の滝、更に両側絶壁の渓谷を出、幅広となったイサカ滝 (Ithaca Fall)。その後全長約4kmを経てカユーガ湖 (Cayuga Lake) に流れ込む。水系と渓谷を抱き込んだ丘陵状のキャンパスは壮観である。

2. そこに突き出る煉瓦造りの時計台 (McGraw Tower)、芝生に点在するジョンソン絵画館、ホワイトホール、輪郭がフランスのシャンボール城を想わせる建築学館のシブレー・ホール等々。キャンパス東西方向には約100万坪の、別世界を想わす美しい植林庭園 (plantations) があり、入江や小川沿いに各種の樹林や鳥類や小動物が自然に溶け込んで生きていた。

P 42

[コメント]

20年前に訪れ、ホテル学科の学生の実習生がやっているスターン・ホテルに何日間か宿泊しながら、チェーン・ストア理論を学んだコーネル大学の美しさは忘れられない。夜中までディスカッションをしリスや小鳥を見ながら早朝のキャンパスを散歩しているとああこのような世界も世の中にはあるのだなと思ったものだ。

- 2010年6月4日 林明夫記 -